

【枕草子】

【】(五月ばかりなど)」

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

五月ばかりなどに山里にありく、いとをかし。草葉も水もいとあをく見えわたりたるに、上はつれなくて草生くさせいひ茂さかりたるを、ながながと ただぎまに行けば、下はえならざりける水の、ふかくはあらねど、人などのあゆむにはしりあがりたる、「」。左右にある垣かきにある、ものの枝などの、車の屋形やかたなどにさし入るを、いそぎて とら入てをらんとするほどに、ふと過ぎてはづれたるこそ、いとくちをしけれ。

蓬よもぎの車くるまに押しひしがれたりけるが、輪わの廻まわりたるに、 近づちかづちかかりたるもをかし。

(枕草子)

問一 「」に入る五字の言葉を文章中から抜き出せ。

問二 「ただぎまに行けば」は、A確定条件、B仮定条件のどちらか、記号で答えよ。

問三 「とら入てをらん」を現代仮名遣いに改めて、平仮名で書け。

問四 「いとくちをしけれ」とは、作者が何に対してどのように思っているのか。最も適当なものを次の中から選べ。

A 木の枝を折りとって楽しもうとしたが、枝をとることに失敗して残念に思っている。

I 木の枝をとり過ぎて手から落としてしまい、欲張よこしまってはいけないと反省はんせいしている。

ウ せつかく折をりとった木の枝をふと手からとり落としてしまい、悔くしく思っている。

エ 木の枝をとり集めようとしたが通りすがりの人はだれも手伝てんってくれず、不愉快ふげきに思っている。

問五 「押しひしがれたりけるが」の主語を、次の中から選べ。

- ア 水 イ もの枝 ウ 蓬 エ 車

問六 「近う」は、「近く」という言葉が変化したものであるがこのような変化を何というか、漢字二字で答えよ。

問七 文章中に描かれている季節や筆者の様子を説明した文を次の中から選べ。

ア 春のころに、従者とともに牛車に乗り、気ままに山里に出歩いている。

イ 梅雨の時期に、徒歩の従者を連れて牛車に乗り、山里を散策している。

ウ 夏の盛りに、従者を連れずに牛車に乗り、気の向くままに山里を見物している。

エ 夏の終わりころに、牛車を引きながら、従者とともに山里を歩き回っている。

問八 枕草子を説明した事項の組み合わせとして正しいものを、次の中から選べ。

ア 紫式部・平安時代・日記

イ 清少納言・鎌倉時代・日記

ウ 清少納言・平安時代・随筆

(京都府)

「解答」

問一 いとをかし

問二 A

問三 とらえておらん

問八
ウ

問七
イ

問六
音便

問五
ウ

問四
ア